



飛翔な日々

編集委員自身の考えを発信したい。それが、このコーナーを立ち上げた動機です。前号に引き続き、今回もたくさんさんの作品が集まりました。『飛翔な日々』第二弾、編集委員有志によるエッセー集です。



ました。今となっては理由すらわか

ロのスポーツ選手になりたいと

え、鷹の爪の政治家になりたいか

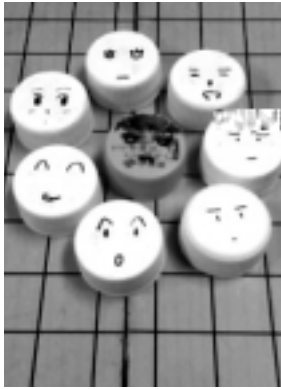
ああ、なまなまは描かねで日本でもなまなまそのか？

現在私の将来の夢というのはハッキリしていませんが、確実に「ロッカーになりたい」とは思っています。

わっていくも

突拍子がなくともどんなに平凡でも、自分が本当にしたいと思えることが必ずあると私は信じています。だから私の今の夢は、私の夢を見つけること。それでいいんじゃない？ こんな贅沢な時間を許してくれる両親に感謝の意を込めて。

飛翔な日々



のですから。周りすべてが敵に見えます。そして、敵に見えるからこそ、案外周りが見えていないので、弱みを隠して歩くからこ
そ、死角が、隙が増えるのです。
結局その時は闇に葬られたのですが、このエッセイを書くにあたって、再び弱みがつつかれることとなったのです。そして
辛子』と打ち込んで、ぼちっとな。途端に十万件以上ヒットしましたが……ま
だ先のようにです。

ピーターパンのしゅうまつ

中村 洋平

大学生活にも慣れてきた今日

す。バイト先での出来事です。

「コーチ何歳?」「十九歳だよ

」「なんだ、まだ子どもじゃん

」「そんなことないよ」

子どもにそう言われて、口では

ました。

きつと僕はまだまだ子どもな
のです。

あれよあれよという間に、小
学生だった僕は大学生になっ
ていました。

のです。子どもの頃から、週末
だけは何時まで寝ていてもよ
かったし、ずっと自由な時間
でした。そして今、僕は使いた
い放題に時間を使っています。
ずっと週末です。しかし、来週
の僕は、毎
日忙しなく働いているの
でしょう。

高校の頃、大人には、に
りたくないと思っていた時期が

ありました。大人は自分の言
いたいことを言えない。我慢する
こと、夢を諦めることが大人の
証だと思っていた時期がありま
した。しかし、最近ようやく大
人、

だ、と思い始めた自分がいま
す。一年生の僕は、どこへ行っ
て

も高い、大きいのです。井の中
の蛙大海を知らず、飛び出し
てきて、高層ビル群を見上げてい
ます。『大人』●『大 人』

と書くのですね。最近そんな
ことを思いました。

子どもの象徴としてよく上げ
られるのがピーターパンです
ね。しかしピーターパンは子ど
もであるからこそ決して正義で
はないのです。彼の正義はあく
まで彼の、
普遍的なものではないからで
紳士的なのです。子どもであり
続けるピーターパンはどんな気
立っただらう、と考えてしま
います。僕の足

その舞台に。

これを書いていて十一月某
日、冬の足音がひたひたと朝の
冷たい床の上から聞こえてきま
す。

僕は徐々に服の重ね着に走り
始めました。

しかし、飛翔七十三号が刊行
される春、きつと今度は徐々に
厚くて重い服を脱いでいるので
しょう。はたして脱皮した僕は
一回り大きくなっているの
でしょうか。



川村 真弓

お腹が減ったら食べるように、
サイズをしたら良い。
好きな服を着て、好きな人と、好きなことをする
とにかく笑えれば、と私の大好きな歌手も歌っている。
笑うための努力は必要だ。



きつね

小野 未千恵

何の動物が好きか、ペットに何を飼いたいかという質問

出

もきつねがいい。

きつねがいい、ときつぱり書いてみたも
からない。なぜきつねがいいの
だろ

大体、きつねというのは童話や昔話では大抵がずるがしこく

言葉をかけその肉を喰らい、ガチョウをだまからかして一家ごとペロリ。オオカミにうまい話があると持ちかけうまく働いてもら
白 は
う。だましてばかりだ。とんでもないやつ ぞ
だがそこがいい。

結局きつねが「うまくやった」ので
手を送るしかあるまい。

しかし、デフォルトで「ずるがしこい」やつらであるが、痛い目にあうことも少なくない。

きつねの策をみやぶる動物
るし、坊主にはよくやられて
る。なまじ知恵があり、普段からすましているやつらだから、惨敗を喫しすごと引き下が

る姿はみじめである。

だがそこがいい。

負けるきつね、実に結構。やつらに温度を感じ、いとおしく思う瞬間だ。「おい、がんばれよ」と声をかけたくなるのではないか。

となると、「ずるがしこいけれどときに痛い目にあう」ところが惹かれるポイントなのだろうか。だとすれば現実世界で、失敗して落ち込んでいる詐欺師の男を見て、「きつねみたい！」と惚れてしまわぬ
なければ。

しかし、つんとすました鼻先と、トースト色の
のしっぽがなければそこ
を感じないかな、とも思う。
ちよつと待て

きつねの外見が好きなのか。ずるがしこくてときに痛い目にあうきつね以外も大好きだとすれば、そういうことか。

確かに、間違えて母親に言われたのと逆の手を出してしまうきつねもよければ、立派な燕尾服を来て幻燈会に

いい。両の人差し指と親指を青色に染めてくれるきつねもよければ、拾った定期券でコロケを食べに行くんだと主張するきつねもいい……きつねなら無条件でオーケーな気がする。

そうか私はつまるところきつねの外見が好きなのか。一種の面食いというわけか。しかし、だとすれば物語のきつねほどにはリアルなきつねに惹かれないのはどうしてなのだろう。

愚かな私に、誰か教えてはくれないものか。思いつつ、今も、眩く。
とにかくきつねはいい、と。



飛翔な日々



異国にて

五十嵐 太郎

あとは小野さんの指示に従ってください。

二〇〇七年八月月上旬、飛翔七十二号の製作が最終段階に入った。を残して、北京へ飛んだ。文学部の先生の、短期留学プログラムに参加したのである。ちなみにこの時、わたしの右腕たる荒川くんもすでにドイツだった。

特

あそれは良いとして、中国滞在

中に考えたことを少し紹介してみたい。

学

語は、うまく通じることもあれば、内容が高度になるほど通じない。しかしある時、話す相手によっても通じやすさに違いがあることに気付いた。語学の先生、知り合いになった大学

生、こういった人達とは比較的

言葉が通じた。通じ

のは、食堂の主人、バスで切符を売っている係員、列車の中で話したおばさん、こういった人達である。

この違いはどこから

のか。ぱっと浮かんだのは、教養という言葉である。それが、先に挙げた人達を二分しているように思えた。相手に教養があ

る。しかし、そこから先が解らな

かった。とりあえず

あり、そのような人としたが、それと言葉が通じること

と、どう関係するのか。

そこで、それらの人と話して

いる場面を思い出してみた。言葉の通じやすい人は、こちらが解らないと見ると、スピードを落としたり、易しい言葉に言い

あと思ったものだ。逆に通じにくい人は、そういった工夫をし

語を理解できないのだ、という感じだった。

はつとした。外国語を学んだことがあるかどうか、そこに秘密があるのではないか。想像するに、外国語

ければ、ゆっくり話す、言葉を選ぶといった工夫は思い付かな

いだろう。それどころか、自分の母語を話せない人間がいるということさえ、受け容れられないかもしれない。外国語の学習には、母語を相対化し、相手の立場に立つための想像力を養う効果があるのではな

これが

こ、親切かどうかではなく、想像力の問題だったのだ。

言葉、なことを考えた。

て



粘りの先へ

荒川 洸一

二年前期は、盛りだくさんで、忙しすぎて最後は鬱になるくらいだった。オリキヤンスタッフ、展開研究論文・ポスター制作、夏の短期留学。それに友達と企画した旅行、夜勤のアルバイト。飛翔、酒まつり実行委員会に取材もした。なにやら普段やらないことに挑んだ、果敢に攻めた、攻メスターだっ

た。充実感や楽しみや成長がた
くさんあって、本当に良かった。
た。

ただ、なんでもすらすらでき
たわけじゃな た ー ー
決めるのも困った
行うこともすごく難しかった。

思うように行かないことがたく
さんあったし、これらに挑んで
失ったものもあ た
というのも本音。強固な自信が
ついた

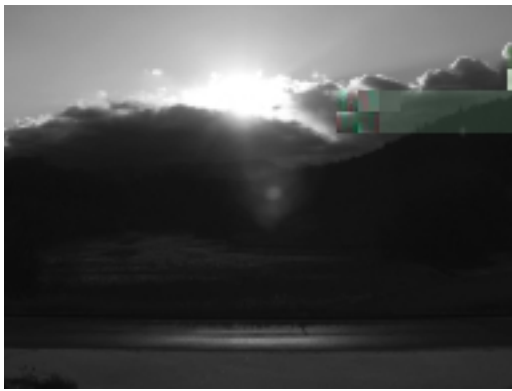
にしてもいまだに不安だし、怖
いし、迷う。なんか泣きたくな
るし、いらだつし、焦る。自分
に前向きに過ごせていると思っ
たのに、すぐに自分の小ささば

ともある（もっとポジティブに
書くつもりだったんだけどな）。

ながながと愚痴りながらも、
今もなにかしら挑戦している。

うまくいく日もあれば、うまく
いかなくて落ち込む日もある。

楽しい日があれば、つらい日も
ある。そんな毎日を相変わらず
過ごしている。悔しく思っ
ては、ただただ粘って過ごす。卑



怯に逃げることもたくさんある
けど、逃げてはやり直し、逃げ
てはやり直す、そんな生活であ
る。粘り強さだけが磨かれてい
くように感じる。ただただ、粘
り続ける。意義も意味もわから
な
挑戦しているからか、とにかく
粘る日が今日も続く。とにかく
あきらめずにやりたいものであ
る。うっそうとした雲を振り払
い、すがすがしい空を見たい今
日この頃である。

